

# 五月の蝉時雨 -エゾハルゼミ-

津軽白神森林生態系保全センター 専門官 有本 実

萌黄色のまばゆい新緑が日に日に濃さを増すブナ林内①。東北の山々は、もうすでに蝉時雨に包まれている所があるかもしれません。今回で紹介するのは、五月中旬から早々に羽化して鳴き始めるエゾハルゼミ②です。

岩手県の安比高原で、ちょうど羽化途中の個体に出会いました。まず上半身から殻を脱ぎ、腹部を殻の割れ目に挟んだまま宙ぶらりんの状態で脚が固まるのを待ちます③。十分に脚が固まってから、フンツ!と腹筋運動のように体を起こして殻を足場にしてつかまり、腹部を殻から引き抜いて翅を伸ばしてようやく完了です④。殻が割れてから翅が完全に固まるまで数時間、大空に羽ばたくための最後の試練でしょう。

エゾハルゼミの鳴き声は、図鑑では“ミョー

キン・ミョーキン…ミョーケケケケケ…”などと表記されますが、何とも独特な音声です。雨乞いすぎて喉を潰したカエル、といった感じでしょうか。東北の春山ではおなじみの音色ですが、西日本では標高1000m前後のブナ帯まで登らないとなかなか聞けず、県によっては準絶滅危惧種などに指定されています。名古屋出身の私が初めて鳴き声を聞いたのは高校時代、山仲間と鈴鹿山脈の鎌ヶ岳(標高1161m)に登った時でした。名古屋の繁華街で夜通し暑苦しく鳴くアブラゼミと違い、深山に不思議な節回しが響き渡るこの蝉時雨に感激したものです。

本種の生態の大きな特徴は、ブナ林内で多数のオスが集合することです。通常セミのオスはメスを呼び寄せるために鳴くのですが、本種はオスをも呼び込みます。多くのオスが一致団結して大声で大合唱することで、より多くのメスを誘い込んで交尾の機会を増やす作戦です。最盛期には山全体が唸り声を上げているような錯覚に陥ります。

今年もエゾハルゼミが鳴く季節が巡ってきました。高校時代からの山に対するモチベーションは保ち続けているか?と自問自答しつつ、さあ夏山シーズン開幕は目前です!



①新緑のブナ林



②エゾハルゼミ



③脚を乾かしてから…



④翅を伸ばす